

平成28年度 決算 状況

減価償却費って何？
 施設や設備は、時間の経過とともにその価値が減少していきます。この価値の減少分を「減価償却費」として費用に計上します。
 なお、現金の支出はないため、この分は現金として残ります。この現金は「施設をつくるため（資本的収支）」の費用の財源にあてられます。

長期前受金戻入って何？
 施設や設備などの減価償却する資産の取得に対して交付された国からの補助金などは「長期前受金」として、減価償却にあわせて収益として計上します。これを「長期前受金戻入」と言い、公営企業独特の会計手法です。
 なお、現金の収入はありません。

水道・下水道・ガス事業とも黒字決算となりました。
 ただし、本業以外の収入や支出を除いた営業損益(本業でのもうけ)について、水道・下水道事業は営業損失(赤字)が発生しています。ガス事業については営業利益(黒字)が発生していますが昨年度より減少しています。

水道の主な事業

- 平成24年度から実施していた葛川地区の簡易水道を上水道に統合する工事が完了し、葛川地区も琵琶湖を原水とする水に切り替わりました。
- 災害時に水を相互融通できるようにするための浄水場連絡幹線工事については打出浜地先で整備を行いました。
- 市内一円で古くなった水道管を新しくする工事を行いました。

普及率 99.97%

下水道の主な事業

- 下水道が整備されていない地域で整備を実施しました。(北小松、北比良など)
- 浸水対策として、新川(本堅田六丁目)などで雨水渠の整備を行いました。
- 地震対策として、救急告示病院下流の耐震診断や北部地域文化センターに配備するマンホールトイレ用の下水道管整備を行いました。
- 施設の老朽化、経年化対策として、下水道長寿命化計画に基づき施設の改築更新に取り組みました。

普及率 98.3%

ガスの主な事業

- 市北部及び南東部地区のガス未供給区域に対して導管網整備を実施しました。(和邇、田上など)
- 市内一円で古くなったガス導管を新しくする工事を行いました。
- ガス設備の安全点検やガス機器の安全使用の周知を実施したほか、ガス漏れなどの発生時に緊急出動を行い二次災害の防止に努めました。

普及率 70.3%

施設を整備するための収入と支出

借入金	6億円	13億円
工事負担金	1億円	
その他	6億円	

水道管等を整備する費用	23億円	35億円
借金の返済	12億円	

◆22億円の不足は減価償却費などで補います。

水道水を届けるための収入と支出

本業による収入(水道料金等)	54億円	総収益 67億円
本業以外の収入(長期前受金戻入等)	13億円	

本業による支出(水道水をつくる費用)	57億円	総費用 62億円
(減価償却費)	30億円	
本業以外の支出	27億円	5億円

黒字 5億円
 本業での損失(営業損失) 3億円

- 1年間で売った水の量(年間有収水量)
3900万^m(前年比0.9%増)
 一般家庭用や工場用、商業用、公用の水利用が前年並み、または微増となったことから前年度と同等となりました。
- 1年間の水道料金収入(給水収益)
53億6400万円(前年比0.9%増)
 有収水量同様、前年並みとなりました。



水道事業

施設を整備するための収入と支出

その他収入	10億円	10億円
借金の返済	0億円	

ガス管等を整備する費用	15億円	15億円
借金の返済	0億円	

◆5億円の不足は減価償却費などで補います。

ガスを届けるための収入と支出

本業による収入(ガス料金)	110億円	総収益 115億円
本業以外の収入	5億円	

本業による支出(ガスの購入費用)	105億円	総費用 110億円
(ガスを送るための費用)	73億円	
(減価償却費)	23億円	9億円
本業以外の支出	5億円	

黒字 5億円
 本業でのもうけ(営業利益) 5億円

- 1年間で売ったガスの量(年間販売量)
1億6900万^m(前年比4.7%増)
 工場用を中心に前年より販売量が増加しました。
- 1年間のガス売上
110億1600万円(前年比22.2%減)
 原料価格の下落によりガス料金単価が下がったため、ガス売上は前年より大きく減少しました。



ガス事業

施設を整備するための収入と支出

借入金	1億円	6億円
一般会計からの繰入金	1億円	
国からの補助金	4億円	

下水道管等を整備する費用	16億円	60億円
借金の返済	44億円	

◆54億円の不足は減価償却費などで補います。

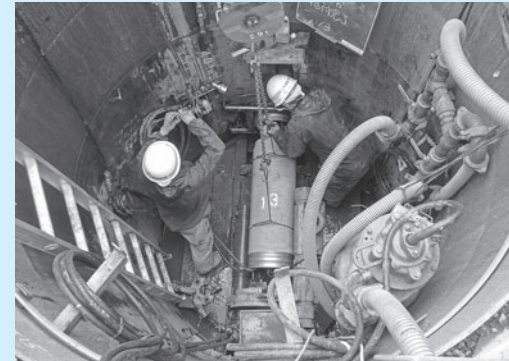
下水を処理するための収入と支出

本業による収入(下水道使用料等)	75億円	総収益 108億円
本業以外の収入(一般会計からの繰入金他)	33億円	
(長期前受金戻入)	11億円	22億円

本業による支出(減価償却費)	81億円	総費用 93億円
(下水を処理する費用)	48億円	
本業以外の支出	33億円	12億円

黒字 15億円
 本業での損失(営業損失) 6億円

- 1年間できれいにした下水の量(年間有収水量※)
3700万^m(前年比1.5%増)
 わずかですが前年よりもきれいにした下水の量が増えました。
 ※有収水量とは…処理場できれいにした下水のうち、地下水や雨水など、使用料を支払う対象とならない分を除いた水量です。
- 1年間の下水道使用料収入
69億5000万円(前年比2.1%増)
 わずかですが有収水量が増えたため、下水道使用料収入も増えました。



下水道事業